

## 式 辞

厳しい寒さもやわらぎ、春の息吹が感じられて、希望に燃える季節になりました。

学部を卒業生した皆さん、大学院及び別科日本語研修課程を修了される皆さん、卒業・修了、誠におめでとうございます。

また、今日まで皆さん方を物心両面から支え、励まし、この日を心待ちにしておられたご家族の皆様のお喜びはいかばかりかと思えます。心からお祝い申し上げます。

皆さんは、新型コロナウイルス感染拡大という、これまで経験したことのない極めて異常で困難な状況の中で、学生時代のほとんどの期間を送られました。そうした厳しい中で、学びと研究を懸命にやりとげ、今日の日を迎えられました。皆さんの強い意思と努力に敬意を表します。

最近、ようやく感染拡大が下火になっており、ご家族お一人という制限を設けはしましたが、このように皆様が一堂に会し、皆さんの旅立ちを祝福することができました。うれしい限りです。

さて、皆さんは、将来への夢と希望で胸を膨らませ、それぞれの世界へ飛び立っていかうとされています。これから、本学で学んできたことを力に、社会の一員として、また一人の人間として、社会に貢献する大きな役割を担うこととなります。学生時代は、社会に貢献することができるようになるための力を蓄える期間であり、これからが本番です。社会が期待し、求めているのは、学位記や卒業証書ではなく、社会をよりよくするための力、すなわち社会力、人間として生き抜く力、人間力です。頑張ってください。

皆さんがこれから飛び立って行こうとされている未来には、複雑で厳しい世界が待ち受けており、様々な問題に遭遇することとします。その時は、今まで学んできたことをしっかりと踏まえて、それを基に考え抜いてください。それには謙虚に今までに知らなかった、新しいことを数多く学んでいくことも大事です。そ

して、最後は、失敗を恐れず、果敢にチャレンジしてください。うまくいかなくても、何度もチャレンジし続けることが大事です。チャレンジをやめた時が失敗です。粘り強くチャレンジを続けている間は、失敗ではありません。

ところで、社会は今、これまで経験したことのないような、混とんとした状態にあります。まず、やや収束の気配を見せつつありますが、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大です。New Normalと表現され、人と人の接触を極力少なくすることが求められる変容した生活様式のなかにあります。それまで圧倒的な勢いで進んでいたグローバル化に急ブレーキがかかり、国境を越えた人とモノの動きがほぼ完全に止まり、停滞した状態にあります。

もう一つが、ロシアのウクライナ侵攻です。今世紀に起こることなど、夢想だにしなかった世界的危機であり、今後どのような世界になるのか全く想像できません。このウクライナ侵攻に伴って発生しているエネルギー危機、食糧危機、物価上昇等々、我々の日常生活に大きな影響も出てきています。

このような時代において、これから社会に出た時に遭遇するであろう難題にどう対処していくのか、大きな問題です。その時何よりも大切なことは、「思いやりの心」を持つことではないかと思えます。相手を尊重し、相手の立場に立ってモノを考え、行動することではないでしょうか。

「経営の神様」と言われた京セラの創業者「稲盛和夫さん」が、「人生で一番大事なものというのには、一つはどんな環境にあらうとも真面目に一所懸命生きていくこと、もう一つは「利他の心」すなわち、ほかの人を幸せにしたいという心をもって、生きていくことです」と言っています。この稲盛和夫さんが言われる「利他の心」こそ「思いやりの心」そのものです。

皆さんは、本学の理念「人類愛の存するところ、技術への愛もまた存する」のもとに研鑽を積んでこられました。この大学の理念は、普遍的な人間尊重、人類への愛をうたったもので、「人を思いやる心」に溢れたものであります。したがって、本学で学んだ

皆さんには、この「思いやりの心」は、自ずから育まれているものと確信しています。

皆さんに望むのは、これからの人生を、「思いやりの心」を持って精一杯生きて欲しいということです。

最後に、皆さんの母校 長崎総合科学大学は、いつでも皆さんを待っています。懐かしい恩師との語らいや後輩の激励に来て下さい。

皆さんが、長崎総合科学大学における良き出会いと学びを財産とし、感謝と思いやりの心を忘れず、成長した自分自身を信じて、元気に一生懸命活躍されることを祈念して、私の式辞といたします。

令和五年三月十七日

長崎総合科学大学

学長 池上 国広